

平城京跡出土 奴婢の売買に関する木簡について

奈良市教育委員会が実施した平城京跡の発掘調査において、奴婢の売買について記された木簡が出土しました。奴婢の売買について記された木簡の出土は初めてで、とても重要な発見です。

奴婢とは

奴婢は古代の身分制度のもとで、所有者に支配され、売買・譲渡の対象とされる存在でした。当時の法令では、奴婢を売買する場合、土地の売買と同じように、証文を作成することが定められていました（養老令-関市令一六条）。

調査の概要

調 査 地：奈良市東九条町・杏町

調査原因：西九条佐保線道路新設改良補助事業に伴う発掘調査（平城京跡第 814 次調査）

調査期間：令和 7（2025）年 12 月 11 日～令和 8（2026）年 6 月 10 日

調査面積：約 2,200 平方メートル

調査成果：平城京左京八条三坊七坪・十坪を調査。

東三坊坊間路、掘立柱建物、井戸を検出

木簡が見つかった場所

木簡は、平城京左京八条三坊七坪の北東側にあった井戸跡から出土しました。この場所は、平城京の東市と推定される区域のすぐ北隣にあたります。

木簡が見つかった井戸

木簡が見つかった井戸は 8 世紀後半頃に掘削、使用、廃棄されたものと考えられます。井戸の規模は、東西約 2.5m、南北約 1.9m、深さ約 2.7m あります。

内部には、長さ約 1.9m の四角い井戸枠を収め、その中央には、直径 0.5m、さらに 0.8m の深さに掘り窪めた素掘りの集水施設を設け、底にこぶし大の礫を敷き詰めたものです。

井戸枠は、板を方形に組み、内側から栈木で支える「縦板組横栈留」と呼ばれる平城京でよく見られるものです。

木簡は、井戸の底に設けられた集水施設の直上から 1 点出土しました。井戸が使われなくなった直後に捨てた可能性があります。木簡の時期は井戸の時期から 8 世紀後半と考えられます。

木簡が見つかった井戸から出土した遺物には、土師器・須恵器等の土器類、ガラス玉 6 点、

全長 30.5cm の大型刀子 1 点、銭貨 3 枚（和同開珎（初鑄 708 年）1 枚・神功開寶（初鑄 765 年）2 枚）があります。

木簡について

木簡は、残存長 62.4 cm、幅 3.7 cm、厚さ 0.9 cm あります。下端が折れて失われていますが、全長は二尺半（約 75cm）～三尺（約 90cm）に及ぶ可能性があります。これは一般的な木簡と比べ、非常に大型です。

上端は、のこぎりで切断、両端は割って製作されています。木簡を再利用する場合、文字部分を刀子等で削るため、削り度合によって凹凸が生じる場合があります。しかし、今回の木簡は厚さがほぼ一定で、表面が平滑なことから、文字が書かれてから再利用されずに廃棄された可能性が考えられます。

木簡に書かれた内容

木簡の両面には、73 文字以上が書かれており、表面と裏面で筆致が異なります。

【表面】

内容：「口須良売（口すらめ）」という名の 27 歳の女性を、8 貫文で売り渡した。買主は、平城京右京三条二坊に住む戸主であり、売主は代金のうち 4 貫文を受け取った。

筆者：売主か。

【裏面】

内容：「逃人」「利」「加」「仍人價」など断片的に残存。

筆者：不明。売主あるいは第三者か。

書かれた内容から分かること

奴婢を売買する場合に作成する証文（券文）は、正倉院文書では、証文の作成を売主がおこなう例が多くみられます。今回の木簡も売主から申請されたことがわかります。

木簡の下端には、文書の結びの言葉や日付、売主の名前などが書かれていた可能性があります。ただし、失われているため詳しい内容は分かりません。

自筆で申告した文書のことを指す「手実」の文字を読み取ることができるため、役所へ提出された申請書類と考えています。

裏面の内容は読み取れる文字から売買の不成立を記している可能性があります。そのため、役所から返却された申請書である木簡は廃棄された可能性があります。

木簡に記された「婢」は、個人が所有する「私（奴）婢」であった可能性があり、私奴婢の売買を記す史料は、公奴婢や寺院が所有した奴婢について記したものに比べて少なく、今回の木簡は貴重な事例となります。

代金の支払い方法

奴婢の売買は、契約が成立した時点で代金を払う必要がありましたが、購入した奴婢の逃亡や、期待された働きをしなかった場合の扱いが問題となり、代金を分割して支払う事例もあったとされます。今回の木簡は代金の半額だけを先に支払った事例として評価できます。

買主と売主の居住地

木簡には、買主が平城京右京三条二坊に居住していたと記されています。一方、売主は木簡が出土した平城京左京八条三坊付近に居住していた可能性があります。

平城京右京三条二坊は、現在の近鉄大和西大寺の車庫付近にあたります。ここに住んでいた人物として挙げられるのが小治田安萬侶で、奈良市都祁甲岡町にある安萬侶の墓から出土した墓誌には 729 年に没し、亡くなった時に従四位下に叙せられたことが記されていました。買主が住んでいた時期は安萬侶が住んでいた時期と比べて 50 年程後ですが、安萬侶が 1 町規模の邸宅に住んでいたことや、平城宮に近い立地からは貴族の邸宅が多かった場所と推測されます。

一方、今回の木簡が見つかった平城京左京八条三坊七坪の周辺では、1/4 町以下の規模の宅地が見つかり、小規模な建物や井戸を検出しています。木簡が出土した井戸からは公的な施設の存在を窺うことができる灯明皿や刀子が出土しています。

まとめ

今回出土した木簡には奴婢の売買について記されており、国内で初めて確認されました。平城京で行われた奴婢の売買を裏付ける資料として注目されます。この木簡は、奴婢の売買契約を記した証文ではなく、役所に証文を申請するための書類と考えられます。また、27 歳の女性を 8 貫文で売ったことや、代金の一部を受け取ったことが記されており、奈良時代後半の奴婢の価格や、支払い方法、取引上の問題や条件が記されている可能性があるという点で重要な資料です。

今後、木簡の文字の解読や関連する文献史料・検出した遺構の性格の検討を進めることで、平城京における奴婢の売買の実態が明らかになることが期待されます。

表面



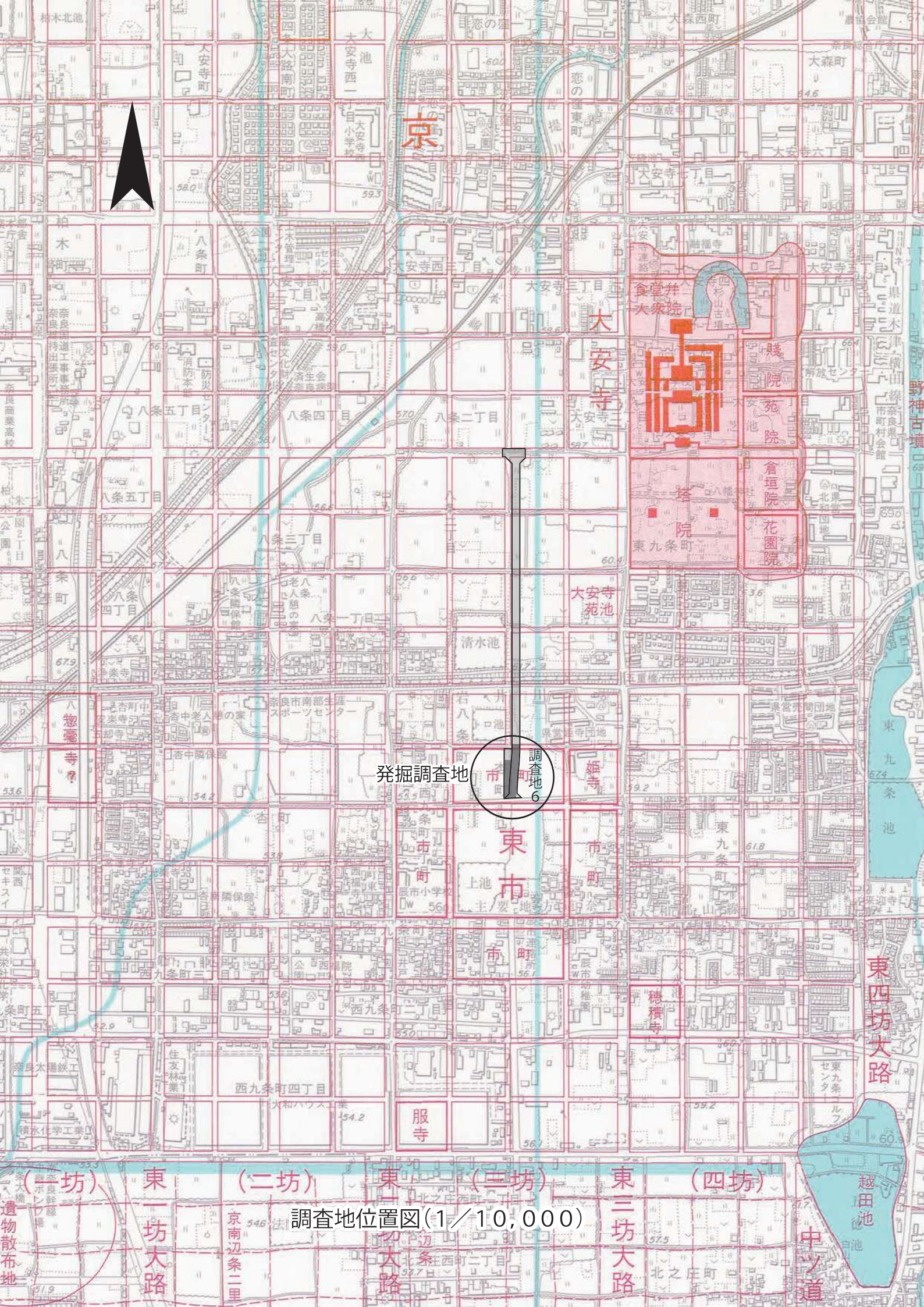
・「
□解 〔×請〕 申売買婢立手 〔実文力〕 婢□須良売 年廿七
〔謹力〕 〔事力〕 價錢捌貫文 且受錢肆貫文 〔且〕
右件婢与売右京三条二坊戸主□

裏面



・「不 〔券籍力〕 □□文過期而進上 □□□□ 〔逃力〕 〔世彼力〕 人□□受□□□□ 〔唯力〕 〔利加詫力〕 □□□□ 仍人 〔價力〕 □×

上端切断、左右両辺割のまま、下端折れ。二片接続。※裏面十二文字目は、「宛」「死」「亮」の可能性がある。



京

大安寺
食堂并
大衆院

賤院
苑
倉垣院
花園院

塔

東九条町

大安寺
苑池

発掘調査地

調査地
6

東市

東四坊大路

越田池

中ノ道

調査地位置図(1/10,000)

(一坊)

(二坊)

(三坊)

(四坊)

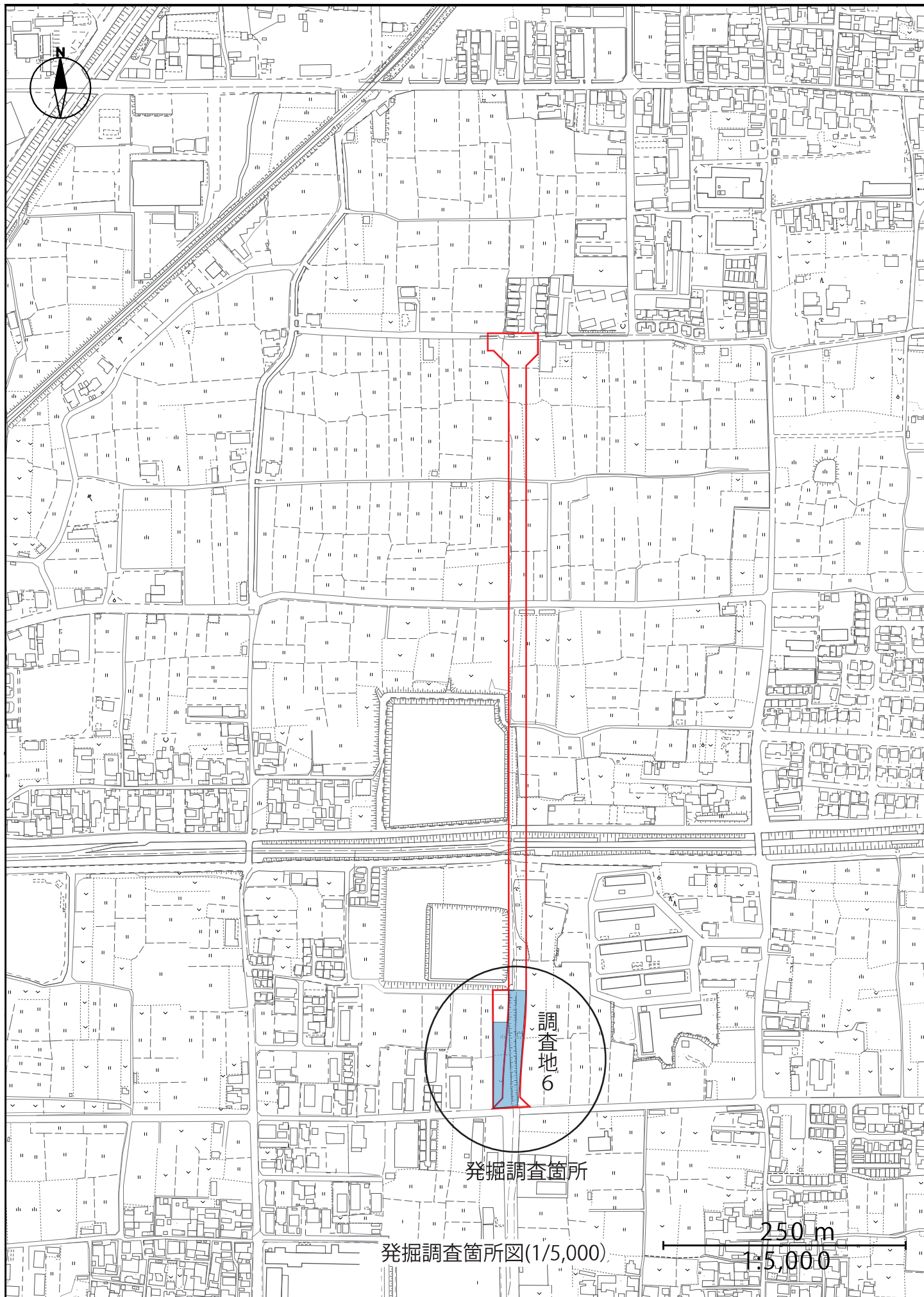
東坊大路

東坊大路

東三坊大路

京南辺条二里

遺物散布地



Y=-17,520

Y=-17,500

Y=-17,480

X=-148,460

X=-148,480

X=-148,500

X=-148,520

X=-148,540

X=-148,560

X=-148,580

木簡が出土した井戸

SE153

七坪

東三坊坊間路

十坪

1/8

1/4

1/2

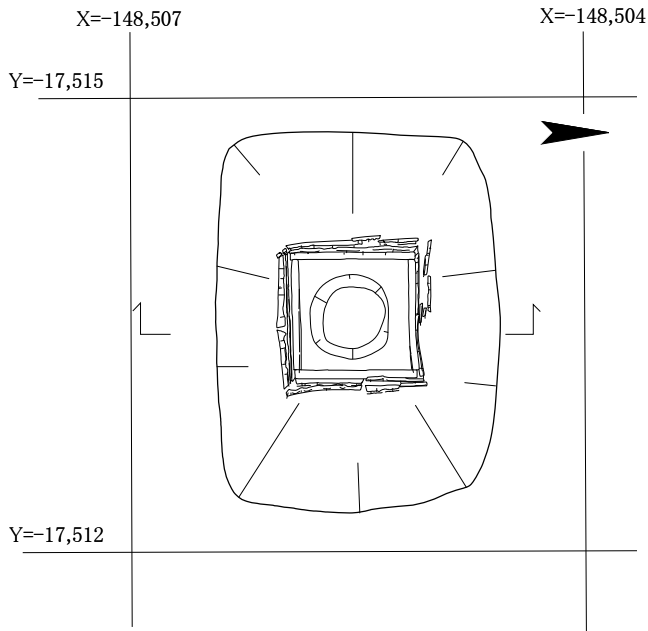
1/4

1/8

0 (1:500) 20m

古代遺構配置図 (S=1/500)

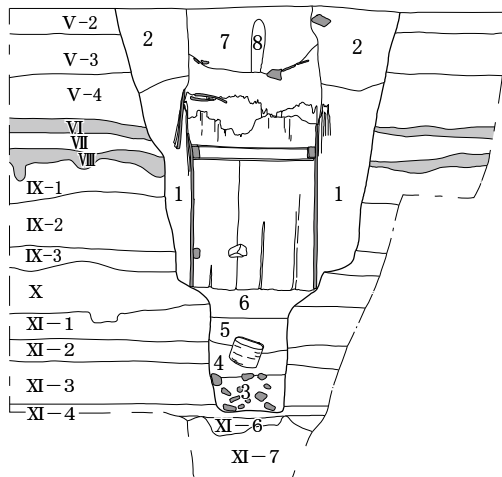
SE153



【基盤層】

- V-2 褐色 (7.5YR4/6) 粗～中粒砂
 V-3 褐灰色 (10Y4/1) 極粗～中粒砂混細粒砂 1cm 大礫含む
 V-4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細粒砂混中粒砂 5mm 大礫含む
 洪水砂層
 VI 黒褐色 (10Y3/8) シルト 土壌化層 水田か
 VII 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 中粒砂混シルト
 VIII 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 土壌化層 水田か
 IX-1 黄褐色 (2.5Y5/3) 中粒砂混シルト
 IX-2 オリーブ黄色 (7.5Y4/3) 粘質シルト
 IX-3 灰色 (5Y5/8) 粘質シルト
 X 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 細粒砂・極粗粒砂の互層
 XI-1 明緑灰色 (7.5GY7/1) 粘土質シルト
 (更新世末～完新世初めか)
 XI-2 暗緑灰 (5G4/1) 粗粒砂混細粒砂 ラミナ有
 XI-3 灰色 (7.5Y4/1) 細粒砂・粘土の互層
 XI-4 灰色 (7.5Y3/1) 細粒砂混 0.5 ～ 1cm 大礫 湧水層
 XI-6 灰白色 (2.5Y7/1) 細粒砂～シルト 火山灰再堆積層含む
 XI-7 灰色 (2.5Y4/1) 粘土

L.H;56.5m



【SE153】

- 1 灰オリーブ色 (5Y6/2) シルト混中粒砂
 灰白色、淡黄色ブロック粘土ブロック混
 2 灰色 (N6/) 細粒砂混粘土
 明緑灰色、浅黄色シルト質粘土ブロック混
 3 黒色 (7.5Y2/1) 細～中粒砂混極粗粒砂
 拳大礫密に含む 濾過層
 4 黒褐色 (2.5Y3/1) 粗～中粒砂混粘土
 5 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土
 6 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土混細粒砂
 7 灰色 (5Y6/1) 中～細粒砂混シルト
 8 灰白色 (N7/) 粘土 しまり弱い 息抜き筒痕か

0 (1:50) 5(m)



平城京跡第814次調査 発掘区 全景（北から）



同 垂直写真（左が北）

※赤トーン部分が SE153



SE153 枠内完掘状況（東から）



SE153 断面（東から）



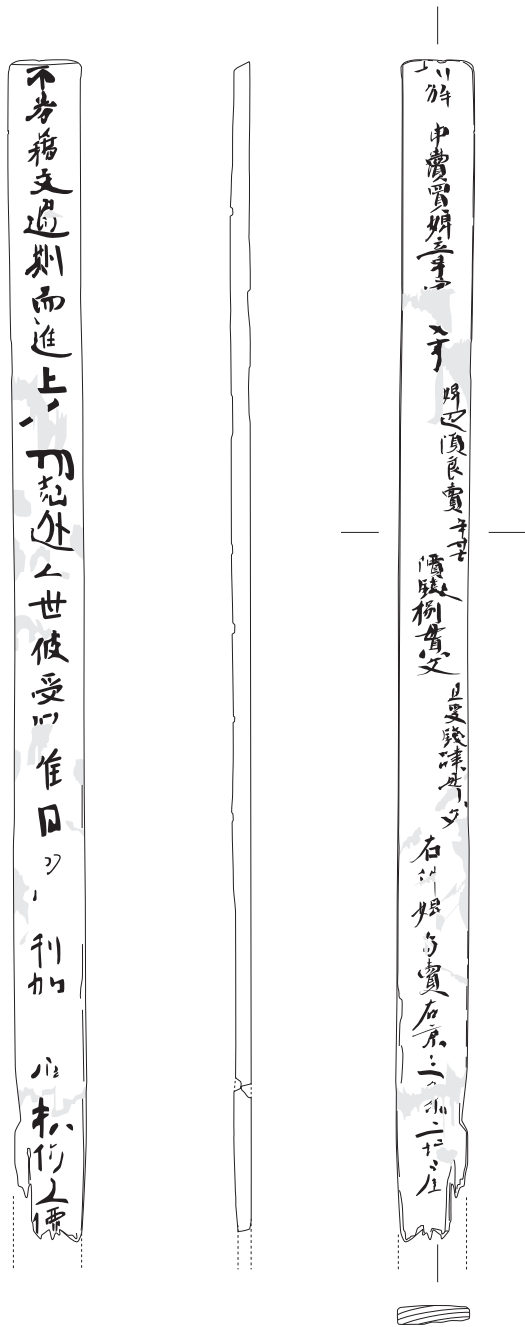
SE153 断面（東から 赤丸内木簡）



SE153 刀子出土状況（北東から）



SE153 水溜施設3層上面 遺物出土状況（東から）



木簡実測図 1/4